

臨時議会は18日開催。

広報広聴特別委員会を新設へ 各派代表者会議での協議の結果

改選後の議会の構成などについて9日から各派代表者会議が連続的に開催されています。

これまでの協議（11日現在）では議長、副議長など議会人事を決める臨時議会を18日（水）午前10時から開くことを決めたほか、市議会の特別委員会について、これまでの災害対策、行革、人口減少、交通対策の委員会を引き続き設置することを基本的に了承、新たに広報広聴についても特別委員会として新設することを合意しま

した。

新設される広報広聴特別委員会は、まだ正式に設置目的を文言にまとめていませんが、市議会の活動状況等について情報公開を進めるとともに、広く市民の意見を求めることよって、市民の議会への理解と関心を高めることを目的にしたものとなります。

これまでも広報広聴委員会は市議会でも重要な役割を果たしてきました。特別委員会にすることにより、一層、市民に責任を持った仕事ができるようにしたいものです。

新政など5会派から 会派届、無所属なし

2日までに議会事務局に提出された会派届け出は、新政、創風、みらい、日本共産党議員団、公明党の6つです。今回はめざらしく無所属の議員がない状態となりました。会派ごとのメンバー構成は以下の通り。◎印は会派代表です。なお、記載順はあいうえお順。

- 【新政】飯塚義隆、草間敏幸、栗田英明、小竹俊之、小林和孝、◎近藤彰治、佐藤敏、滝沢一成、田中聡、牧田正樹、丸山章
- 【創風】池田尚江、江口修

議員団長は私

4人になった日本共産党議員団の議員団内の役割分担が決まりました。私は一年ぶりに議会に戻り、日本共産党議員団の責任者になりました。よろしくお願ひします。

- 議員団長 橋爪法一
- 副団長 上野公悦
- 幹事長 橋本正幸
- 会計・庶務 平良木哲也

野党共闘+市民の力で政治を変える 日本共産党演説会

日時：5月21日午後2時開会
会場：新潟テルサホール
弁士：穀田恵二衆院国対委員長
森ゆうこ元参院議員

戦争法をすすめる安倍自公政権と対決して野党と市民の共同で政治を変えるチャンスです。日本の未来をひらく改革プランを語ります。入場は無料。バスまたは乗用車で乗り合わせて参加します。是非、お誘いあわせてお出かけください。参加を希望される方は橋爪または「しんぶん赤旗」配達員までご連絡を。



5月4日、大島区旭地区で行われた旭新緑祭に参加してきました。午前には山菜採り、ブナ林などの観察を行った後、ウドやフキ、「嫁泣かせ」などの山菜料理を楽しみました。写真は自然観察で初めて見たモウセンゴケです。



【ヤブジラミ】セリ科の越年草。漢字で「藪虱」と書きます。吉川区内にある平和橋の架け替え工事現場の近くで咲いていました。群落を形成し、白い花が一面に咲いているので探すのは割合簡単です。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1756 2016.5.15
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四〇四回

モウセンゴケ

土手にあるひとつの植物に私が目を奪われたのはその日の午前一時半頃だったと思います。大島区旭新緑祭での自然観察が終わろうとしていました。ガイド役の植木務さんが農道のそばの土手で指した場所には、長さ三、四センチの緑色のものが土の中から数本伸びていました。

それは植物と言うよりも、小さな動物のように見えました。茎なのでしょいか、それとも葉なのでしょいか、その表面からはトゲのようなものもがたくさん出ていて、先端にはそれぞれ小さな水玉状のものがついていました。もし、風に吹かれて動いていけば、毛虫だと思ったことでしょう。

植木さんの説明で、この動物のようなものがモウセンゴケと呼ぶ植物であることを初めて知りました。そして、何よりも驚いたのは、このモウセンゴケが氷河時代からの生き残りであり、虫を食べることもあるということです。小さな水玉のようなものは粘液で、この液に虫がくっつくとしつかり捕まえて食べてしまうというのです。

話を聞いていた私は、少年時代、標高二〇〇以上の屏風のような形をした山の尾根近くで貝の化石を見つけたときのことを思い出していました。場所は吉川区尾神地内です。海の隆起など考えたこともなかったあの当時は、「海で生きていたはずの貝が何でこんなにも高いところにあるのだろう」と驚き、不思議に思ったものでした。

今回もそのときに勝るとも劣らない衝撃でした。大島区田麦の標高三〇〇以上のところに氷河がやってきたことがあるということだけで感動しました。そして、「氷河が拡大した時、このモウセンゴケはどんなふうにして生き残ったのだろうか」「食虫植物だというのがどんなふうにも虫を捕まえて体に取り込むのか」そんな疑問が次から次へと湧いてきたのです。

数日後、私は、モウセンゴケがあった場所に再び出かけることにしました。出かけた

後、私は、モウセンゴケの粘液に手で触って見たかかったからです。植木さんは自宅へ招き入れてくださり、インターネットなどで調べた資料を見せてくださいました。モウセンゴケのトゲのようなものは腺毛だったんですね。そこから粘液を出して虫を捕まえる

と、なんと、腺毛は虫を逃がさないように曲がるのだそうです。葉も虫を包み込み、腺毛からは消化酵素を分泌し、虫を溶かして体に取り込むのだとか。なるほど、すごい。粘液は植木さんも触ったことがないということ、モウセンゴケのあった場所へは植木さんも同行してくださることにしました。一〇分くらい歩いて現地に到着すると、モウセンゴケは北向きの少し湿り気のある斜面にひとつだけではなく、七つか八つほどありました。

恐るおそる粘液に指で触ってみました。モウセンゴケは指にびたっとくっついてついてきます。なるほど、これなら虫は逃げ出すことはできません。どうなるかとちよっぴり心配した指ですが、溶け出すことはありませんでした。モウセンゴケのそばにあつた一〇センチほどのヒカゲノカズラ、これは三億年前は四〇センチほどの大木だったといふのです。ということはモウセンゴケも元はもつと大きな植物だったのかも知れませんが。そして、モウセンゴケはもう少し経つと白色かまたは赤い花を咲かせるということ。花はタデ科の花に似ているとか。何となくそわそわしてきました。

激戦を振り返り、山菜料理に舌鼓

日本共産党橋爪地域後援会主催の「山菜料理を楽しみ、政治を語る会」が5日、吉川区多目的集会場で行われました。田んぼ仕事や連休の行事がたくさんあるなかで70人ほど

の人たちが参加してくださいました。ありがとうございました。

第1部では小田順子後援会長が厳しかった選挙戦を振り返り、「日本共産党が4議席取れてよかった」と涙の挨拶。私も激戦を勝ち抜いた後の市民の皆さんからの喜びの声などを紹介し、決意を語りました。この日の会には日本共産党市議団の上野市議、橋本市議も挨拶し、参院選勝利を目指す決意を語りました。橋本市議が市議としてこの会に参加したのは初めて、参加者から注目されました。平良木市議は残念ながら他に仕事があつて不参加でした。

第2部は懇親会。女性後援会員さんたちの手づくり料理は美味しいと評判でした。今回はウド、三つ葉、フキ、ワラビなど山菜料理の他に赤飯もつきました。懇親会では手品あり、歌謡曲ありで大賑わい、楽しいひと時を過ごしました。Kさんが手



品をやり始めたら、Iさんも登壇し手品をやって会場を沸かせました。歌に合わせてダンスをする人も出ました。

懇親会では大勢の人と懇談できました。「ごくろうさんだったね」「これからもがんばってくんない」という声が多かったのですが、最近の私のブログを読んだ人の話も聞くことが出来ました。その人はHさんです。Hさんは私が映画「風の波紋」を観た翌日にロケ地へ出かけたという記事を読み、十日町市の中立山までわざわざ出かけてきてくださったといひますから驚きました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月4日(水)	5月11日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.067	0.057
頸北消防署	0.066	0.057
頸南消防署	0.057	0.057
東頸消防署	0.060	0.053
高士分遣所	0.050	0.054
名立分遣所	0.053	0.063